芸術ニュースは世界へ発信するワールド・ステージ
週刊 芸術新聞

発　行：アグリーシステム　週刊芸術新聞編集部
本　社：千葉県茂原市渋谷1016-12
メール：agree@green.ocn.jp ／agree-sys@excite.co.jp

おもしろ体験博物館
江戸民具街道

神奈川県足柄上郡中井町久所418
開館時間：10：00～17：00月曜休
問い合わせ：0465－81－5339

# 山種美術館開館50周年記念特別展
# 奥村土牛
## 画業ひとすじ100年のあゆみ

開館50周年記念第1弾として開催する本展では、国内屈指の作品数（135点）を有し、まだ無名だった研鑽の時代から画家・奥村土牛に焦点を当て、その全貌を紹介する。

奥村土牛は、画家志望であった父親のもと10代から絵画に親しみ、梶田半古（1870～1917）の画塾で生涯の師と仰ぐ小林古径（1883～1957）に出会う。

38歳で院展初入選と遅咲きでありながらも、40代半ばから名声を高め、100歳を超えても制作に取り組んだ。また、半古や古径から学んだ「写生」や「画品」を重視する姿勢を生涯貫き、「絵を通して伝わってくるのは作者の人間性」という自らの言葉を体現するような、清らかで温かみ溢れる作品を数多く生み出した。

本展では、画業の初期の作品《麻布南部坂》（個人蔵）、《胡瓜畑》（東京国立近代美術館）から、活躍の場であった院展への数々の出品作《雪の山》《聖牛》《城》などを中心に、古径を偲んで描いた《醍醐》《浄心》や、実景の丹念な写生に基づく《鳴門》といった代表作など、他所蔵先から拝借した名品を含め約60点を通し、土牛の101年の生涯をたどる展覧会。

土牛という雅号は、「土牛石田を耕す」の中国・唐の詩から父親が名付けたもの。その名の通り、地道に画業へ専心し続けた土牛。80歳を超えてなお「死ぬまで初心を忘れず、拙くとも生きた絵が描きたい」と語り、精進を重ねた。

山種美術館が開館50周年を迎えるこの機会に、当館と縁が深く、近代・現代を代表する日本画家として、人々に愛されている土牛の作品と生涯を紹介する。

**メモ**

◆3月19日（土）～5月22日（日）
◆山種美術館（東京都渋谷区広尾3—12—36）　TEL03—5777—8600（ハローダイヤル）
一般1200円　大高生900円　中学生以下無料
月曜日休館（3／21・5／2は開館、3／22は休館）

**次号は2月25日発行**

**熱海湾を一望でき、眺望ナンバーワンの美術館**

■MOA美術館（静岡県熱海市桃山町26—2）　電話0557（84）2511　一般1600、高大生800円、中学生以下無料、65歳以上1200円木曜日休（祝日は開館）
JR熱海駅下車／バス4番のりばMOA美術館行8分

**版画でみる20世紀展　ピカソからウォーホルまで　開催中！**

■諸橋近代美術館（福島県耶麻郡北塩原村大字桧原字剣ヶ峰1093番23）　一般・大学生950円、高校生500円、小・中学200円生＊毎週土曜日、小・中学生は無料
電話0241（37）1088

# 特別展　生誕150年　黒田清輝

## 日本近代絵画の巨匠

### 東京国立博物館　平成館

「湖畔」で広く知られ、日本美術の近代化のために力を尽くした黒田清輝（1886～1924）の生誕150年を記念した大回顧展。本展は師コランやミレーなど、黒田がフランスで出会い導かれた作品をあわせて展示しながら、留学時代の「読書」「婦人像（厨房）」や帰国後の「舞妓」「智・感・情」などの代表作によって、黒田清輝の画業全体を振り返る。

《展覧会のみどころ》

第1章　フランスで画家になる―画学修行の時代［1884～1893］

第2章　日本洋画の模索―白馬会の時代［1893～1907］

第3章　日本洋画のアカデミズム形成―文展・帝展の時代［1907～1924］

**メモ**

◆3月23日（水）～5月15日（日）

東京国立博物館　平成館（東京都台東区上野公園13―9）　TEL03―5777―8600（ハローダイヤル）　一般1600円　大学生1200円　高校生900円　中学生以下無料　月曜日休館（3／28（月）、4／4（月）、5／2（月）は開館）

## 没後10年

# 長　新太の脳内地図展

### 佐野美術館

漫画家、イラストレーター、エッセイスト…多彩な才能をいかんなく発揮し、八面六臂（はちめんろっぴ）の活躍をした絵本作家・長新太（ちょうしんた）。とぼけたユーモアと、“ナンセンスな”センスあふれる独特の作風で、日本の絵本界に新境地をひらいたことで知られている。

長新太の頭の中には、ありえないほど大きなモノや、突然出現する摩訶不思議なシロモノや、想像を超えたおかしなヒトビトがいっぱい詰まっていたらしい。これほど子供のように奔放な世界を創り出した作家は、長新太をおいて他にいない。

本展は、「イマジネーション」「センスとナンセンス」の2部構成で、絵本原画、漫画原画、創作のための資料など約250点を展示。没後10年を経てなお、あらゆる人々を魅了し続ける長新太の創作の秘密をとくとご覧いただける。

**メモ**

◆3月12日（土）～4月17日（日）

佐野美術館（静岡県三島市中田町1―43）　TEL055―975―7278　一般・大学生1000円　小・中・高校生500円　木曜日休館

## スタジオ設立30周年記念

# ピクサー展

### 東京都現代美術館

「トイ・ストーリー」や「ファインディング・ニモ」、「インサイド・ヘッド」そして最新作「アーロと少年」など、数々の人気作品を世界に送り出すピクサー・アニメーション・スタジオ。

1986年、アメリカのカリフォルニアで、ジョン・ラセター、エド・キャットマル、スティーブ・ジョブズらが奇跡のような運命で共に集い、ピクサーは2016年はスタジオ設立30周年の節目となる。

世界各国で好評を博した世界巡回展が、2016年、スタジオ設立30周年を記念した作品群を加え、構成を新たにして日本に上陸。

**メモ**

◆3月5日（土）～5月29日（日）

東京国立近代美術館（東京都江東区三好4―1―1）　TEL03―5777―8600（ハローダイヤル）　一般1500円　高校・大学生1000円　高校生400円　小・中学生500円　月曜日・3月22日（火）休館（ただし、3／21、5／2。5／23は開館）

---

**日本の歴史・文化の流れの中から論点を絞ったテーマを選んでの展示**

■国立歴史民俗博物館（千葉県佐倉市城内町17）　電話03（5777）8600ハローダイヤル　一般420円、高校・大学生250円、中学生以下無料　月曜日休館

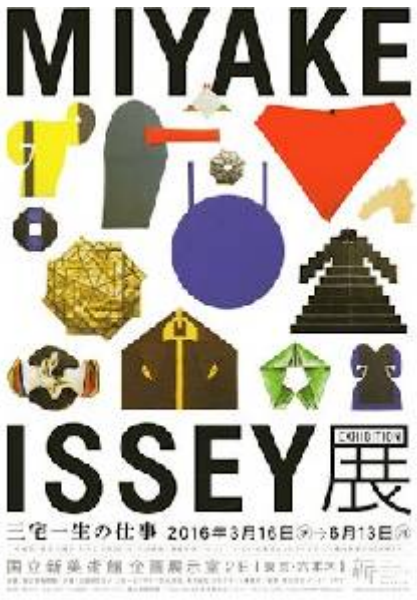
**着物、帯、のれん、屏風、額絵、絵本など多岐にわたる**

■静岡市立芹沢銈介美術館（静岡市駿河区登呂5―10―5）　電話054（282）5522　一般410円高大生250円　月曜日休館

**庭園ゾーン　書院ゾーン　体験ゾーン　展示ゾーン**

■北九州市立小倉城庭園（北九州市小倉北区城内1―2）　電話093（582）2747　会期中無休

# 三宅一生の仕事
# MIYAKE ISSEY展
## 国立新美術館




国立新美術館では、２００７年の開館以来、「さまざまな美術表現を紹介し、新たな視点を提起する美術館」を活動理念とし、デザインは重要な展示テーマの一つと考えてきた。本展「ＭＩＹＡＫＥ ＩＳＳＥＹ展：三宅一生の仕事」は、三宅氏が活動を開始した１９７０年から現在に至る約45年間の仕事を紹介する、これまでにない規模の展覧会となる。

三宅氏は常に次の時代を見据えながら、新しい服づくりの方法論と可能性を示している。それは、１９６０年に日本で初めて開催された世界デザイン会議において、当時、多摩美術大学在学中であった三宅氏が、衣服デザインが含まれないことに疑問を持ち質問状を送ったことに始まる。既にそこには、衣服は時代と共に移ろう「ファッション」として存在するのではなく、より普遍的なレベルで私たちの生活と密接に結びついて生まれる「デザイン」であるという三宅氏の思想が見て取れる。以来、既成の枠にとらわれない自由な発想のもと、独自の素材づくりから始まり、「一枚の布」と身体との関係や、そこに生まれる「ゆとり」や「間（ま）」を追求しています。また、チームと共に粘り強いリサーチと実験を行い、革新性と着心地のよさを兼ね備えた衣服を生み出している。

本展では、初期から最新プロジェクトまでの全仕事を通して、ものづくりに対する三宅氏の考え方やデザインアプローチを明らかにし、未来に向けた更なる創作の可能性を探る。三宅氏の仕事の多様性や豊かさを示しつつ、細部をも丹念に紹介する本展は、今なお進化し続ける三宅氏の服づくりについて明らかにするもの。子どもから大人まで、誰もがつくることの楽しさに触れていただくとともに、本展が自由な発想を押し広げ、創造力を刺激する機会となる。

**メモ**
◆3月16日（水）～6月13日（月）
国立新美術館　企画展示室2E（東京都港区六本木7―22―2）　TEL03―5777―8600（ハローダイヤル）　一般1300円　大学生800円　中学生以下は無料　火曜日休館（5月3日（火・祝）は開館）

# 安田靫彦展
## 東京国立近代美術館

名作の数々で知られる日本画家、安田靫彦（１８８４～１９７８）は、岡倉覚三（天心）から直接の薫陶を受けた最後の世代の一人といわれる。

日本美術院の再興に参画し、確かな画技と高い教養を背景に、歴史画に新たなイメージを創出し続けた。２０１１年に重要文化財に指定された《黄瀬川陣》（１９４０―４１年）等代表作約１００点により、その優美な歴史画の魅力に迫る。

**本展のみどころ**

①１００点を超える出品作はすべて本画。代表作を集めた真っ向勝負の回顧展で、靫彦芸術の真髄をご覧いただける。

②歴史好きの人必見。ヤマトタケル、聖徳太子、源頼朝、源義経、織田信長、豊臣秀吉、宮本武蔵……など、時代のヒーローたちを描いた、教科書でもおなじみの作品が並ぶ。靫彦戦後の３大美女、《王昭君》、《卑弥呼》、《飛鳥の春の額田王》も…。

③古代、中世、近世の歴史人物たちがまとう、服飾、武具、装飾品などにも注目。元ネタとなった古物、古器と照合できるものも多数展示。

**メモ**
◆3月23日（水土）～5月15日（日）
東京国立近代美術館（東京都千代田区北の丸公園3―1）　TEL03―5777―8600（ハローダイヤル）　一般1400円　大学生900円　高校生400円　中学生以下無料　月曜日休館（3／28、4／4、5／2は開館

特集

「生活とアート」をコンセプトに新しい切り口の展覧会

# 見附正康・西田健二の＋α展

LIXIL GALLERY

LIXILギャラリー（東京・京橋）では来る3月10日（木）から5月5日まで、人気作家の見附正康氏と西田健二の「見附正康・西田健二の＋α展」が開催されることで、注目されている。

## 分業による協働でひとつの作品を制作

見附正康氏と西田健二氏は、九谷焼の技法のひとつ「赤絵細描」を現代に生かした作品でとても人気がある作家。

両作家は、分業による協働でひとつの作品を制作しているが、本展はそれぞれが制作した作品を展示することで、ひとつの作品に結晶している複眼の思想をひも解こうという趣向。

本展では、見附氏の「赤絵細描」大皿、香合、蓋物、西田氏の青白磁の香合や水注など、そして両氏による共同作品を含めて約15点を展示される。

見附正康
「赤絵細描小紋蓋物」
2015年 H12×直径22.5cm

## 現代「赤絵細描」の作品

もっとも注目される現代「赤絵細描」は、九谷焼の技法のひとつで、それに魅せられた見附正康氏は、1975年生まれ。「赤絵細描」を現代に蘇らせた第一人者・福島武山氏に師事し、その腕を磨いてきた。

一本の筆による1ミリにも満たない細い線で息を詰めるようにして文様を描き出す「赤絵細描」は、江戸後期から昭和初期まで「ジャパンクタニ」の代名詞となるほど人気があった。

現代の見附氏の描く線は、滲みも歪みもなく繊細で、まるでCGと見紛う完成度。また、幾何学模様で構成されるデザインはデジタルパターンにも似て、人気の理由のひとつとなっている。

元来「赤絵細描」はその技法の難しさから、素地の成形と絵付けは別々の担当で行われていた。

その素地を成形しているのが轆轤師（ろくろし）の西田健二氏。西田健二氏は1973年うまれ、生家は九谷焼の絵付師でありながら、自ら成形の道を追求してきた作家なのだ。そこには絵付師の経験から生まれた、理想の造形の実現がある。

同世代の二人が互いの感覚に惹かれあい、時に挑戦し合い、波と波が重なり合って思いがけず複雑な波紋を描き出すように、コラボレーションの妙が生まれた。

本展では、二人で制作した作品とそれぞれの作品などを展示される。

西田健二
「青白磁水注」
2015年 H28×D9.5×W16.5cm

## メモ

◆3月10日（木）～5月5日（木）　LIXILギャラリー（東京都中央区京橋3－6－18　東京建物京橋ビルLIXIL：GINZA2F）　TEL03－5250－6530　入場無料　水曜日休館

# 2016年3月15日までの主な展覧会情報

# 美術館・博物館ガイド

## 東京都内

●東京国立博物館（平成館）「始皇帝と大兵馬俑」　2月21日まで　TEL03―5777―8600（ハローダイヤル）　一般1600円　月曜日休館

●国立科学博物館　「ワイン展　ぶどうから生まれた奇跡」　2月21日まで　TEL03―5777―8600（ハローダイヤル）　一般1500円　月曜日休館

●東京国立近代美術館「恩地孝四郎展」　2月28日まで　TEL03―5777―8600（ハローダイヤル）　一般1000円　月曜日休館

●東京国立近代美術館工芸館　「未来へつづく美生活展」　2月21日まで　TEL03―5777―8600（ハローダイヤル）　一般210円　月曜日休館

●東京都現代美術館「TOKYO　見えない都市を見せる」　2月14日まで　TEL03―5777―8600（ハローダイヤル）　一般1200円　月曜日休館

●宮内庁三の丸尚三蔵館「北欧の工芸　自然が生み出す」　3月6日まで　TEL03―5777―8600（ハローダイヤル）　無料　月、金休館

●出光美術館　「文字の力・書のチカラⅢ書の流儀」　2月14日まで　TEL03―5777―8600（ハローダイヤル）　一般1000円　月曜日休館

●講談社野間記念館「近代日本の花鳥画展」　3月6日まで　TEL03―3945―0947　一般500円　月、火休館

●根津美術館　「松竹梅　新年を寿ぐ吉祥のデザイン」　2月14日まで　TEL03―3400―2536　一般1000円　月曜日休館

●Bunkamura　ザ・ミュージアム　「英国の夢　ラファエル前派展」　3月6日まで　TEL03―5777―8600（ハローダイヤル）　一般1500円　1/25休館

●練馬区立美術館　「浜田浄の軌跡　重ねる、削る　絵画」　2月7日まで　TEL03―3577―1821　月曜日休館

●森美術館　「村上隆の五百羅漢図展」　3月6日まで　TEL03―5777―8600（ハローダイヤル）　一般1600円　無休

●永青文庫　「狂言を悦しむ」　2月21日まで　TEL03―3941―0850　一般800円　月曜日休館

## 東京郊外

●武蔵野市立吉祥寺美術館　「カンバセーション―ピース：かたちを（た）もたない記録」　2月28日まで　TEL0422―22―0385　一般100円　月曜日、1/27休館

●府中市美術館　「若林奮　飛葉と振動」　2月28日まで　TEL03―5777―8600（ハローダイヤル）　一般700円　月曜日休館

●町田市立博物館　「魅惑の小宇宙！　懐中時計展」　3月6日まで　TEL042―726―1531　一般300円　月曜日休館

## 関東南部

●そごう美術館　「日本画の革新者たち展」　2月16日まで　TEL045―465―5515　一般1000円　無休

●鎌倉国宝館　「肉筆浮世絵の美　氏家浮世絵コレクション」　2月14日まで　TEL0467―22―0753　一般400円　月曜日休館

●神奈川県立生命の星・地球博物館　「日本のスゲ　勢ぞろい」　2月28日まで　TEL0465―21―1515　無料　月、火曜日休館

●佐野市立吉澤記念美術館　「松本姿水と季節の情趣」　2月21日まで　TEL0283―86―2008　一般510円　月曜日休館

●サトエ記念21世紀美術館　「生誕130年記念　斎藤与里展」　3月13日まで　TEL0480―66―3806　一般900円　月曜日休館

●千葉市美術館　「初期浮世絵展　版の力・筆の力」　2月28日まで　TEL043―221―2311　一般1200円　2/1休館

●池田20世紀美術館「40年の歩み展　Part3」　3月15日まで　TEL0557―45―2211　一般1000円　水曜日休館

●MOA美術館　「大名品展」　3月6日まで　TEL0557―84―2511　一般1600円　無休館

## 関東北部

●山梨県立博物館　「天の虫のおきみやげ　山梨の養蚕信仰」　2月29日まで　TEL055―261―2631　一般510円　火曜日休館

＝お出かけ前に再確認して下さい＝

### ルネ・ラリックの生涯と出会う

■箱根ラリック美術館（神奈川県足柄下郡箱根町仙石原186番1）　電話0460（84）2255　一般1500円、大学生・高校生・シニア（65歳以上）1300円、中学生・小学生800円年中無休

### からくり人形など関係資料多数展示中

■江戸民具街道（神奈川県足柄上郡中井町久所418）　電話0465（81）5339　月曜日休館

### 箱根の景観と自慢のスウィーツを楽しめます

■箱根写真美術館（神奈川県足柄下郡箱根町強羅1300―432）　電話0460（82）2717　火曜日休館　毎週土曜日は夕方5時まで営業

# Art Topics

国立歴史民俗博物館

## 万年筆の生活誌
### ―筆記の近代―

万年筆は明治時代に日本に輸入されはじめてから、それまでの毛筆に代わって、公的な筆記具として広く用いられてきた。いわば近代日本の筆記を支えた道具ということができる。この展示では、その歴史や製作に必要な技術、装飾、さらにはふだんの暮らしのなかでの位置づけなどについて、さまざまな角度から光をあててみる。

第1部では、明治になって輸入された万年筆が人びとをとらえ、やがて国産化されていった様子について、その技術に目配りしながら見ていく。

第2部では、近代の暮らしのなかで万年筆がはたした役割や位置について、販売の様相、使用された諸場面、特に個人の表象として万年筆が用いられてきたことなどについて取りあげる。

全体を通じて、文字を書く道具としての万年筆が、近代の庶民生活のなかで担ってきた多様な意味を考え、万年筆をめぐる文化を歴史のなかで考えてみる。

**メモ**　◆3月8日(火)～5月8日(日)

国立歴史民俗博物館　企画展示室A・B（千葉県佐倉市城内町117）　TEL043―486―0123　一般830円　高校生・大学生450円　中学生以下無料　3月14日(月)、22日(火)、4月4日(月)、11日(月)、18日(月)、25日(月)休館（3/28(月)、5/2(月)は開館）

Art Gallery LOS PINOS & Cafe

## 第5回　大ネコ展

2月22日（月）～3月7日（月）

毎年2月22日（猫の日）、この日からスタート。

各作家さんがいろいろな手法で、それぞれの「ネコ」を表現している。木工、紙粘土、陶芸、版画、もペン画も。今年はガラス細工なども登場。

●各作家さんは次の通り。

かりや淳子、ウシャンガ後藤工房、横森テルオ、森節子、中田幸代、はちぴー工房、岡文子、にーたか、畠山晶、細井その子、細谷カズ、和田圭以、高瀬美恵ほか。

**メモ**　◆2月22日（月）～3月7日（日）アートに囲まれたコーヒーリゾート Art Gallery LOS PINOS & Cafe（神奈川県藤沢市南藤沢7―6―102）　TEL050―8001―5079　営業時間：12：00～18：00　水曜日休廊

史上最大の肉食恐竜スピノサウルス、驚きの生態を解明する

## 恐竜博2016

いつの時代も子どもから大人まで幅広い世代を魅了しつづける恐竜。今回、最前線での研究を活かし、スピノサウルスの復元骨格が日本初公開。水中に潜んでいたという最新研究をもとに、驚きの生態を解き明かす。また、イタリアのミラノ市立自然史博物館に所蔵されている、スピノサウルスの吻部(口先)の実物化石も特別展示。他の肉食恐竜とは大きく異なる歯や細長い口などを間近で見ることができる。

また、カナダで発表されたティラノサウルス「スコッティ」の全長約12mにも及ぶ全身復刻骨格も披露。同種の中でも最大級の大きさを持つ「スコッティ」と、全長約15mのスピノサウルスによる夢の共演が実現し、両者の進化の秘密について迫る。

**メモ**　◆3月8日（火）～6月12日（日）

国立科学博物館　特別展示室（東京都台東区上野公園7―20）　TEL03―5777―8600（ハローダイヤル）　一般・大学生1600円　小・中・高校生600円　月曜日休館（月曜日が祝日の場合は火曜日（3/28は開館）